



※都スポーツ推進校3年の経験と実績をさらに活かす。

学力定着・向上

- ①授業力・都の示す6つの構成要素の共通理解と**授業規律の徹底を図る。**
- ②OJTを工夫し、計画的に実施することで授業力向上を図る。
- ③TT、少人数制授業等の指導方法の工夫や学力補充教室、質問教室等を実施することで、確かな学力の定着・向上を図る。
- ④評価計画を明確に示し、生徒や保護者に説明する。授業評価も行う。
- ⑤年間計画・週案・授業時数を照らし合わせ、進度確認をする。
- ⑥学力調査の結果を活用して授業改善推進プランを策定し、実践する。
- ⑦二学期制、夏休み短縮等で学びの連続性と授業時数を確保する。

教師の主な課題

- ・教科の専門性を高める
- ・生徒理解
- ・6つの構成要素の工夫『授業力向上』
- ・授業改善推進プラン作成

健全育成

- ①心と体の健康づくり。明るく元気なあいさつと環境整備・美化に努める。薬物乱用防止、性教育、熱中症予防、救急救命講習の実施。
- ②基本的な生活習慣の育成と規範意識の定着を図る。
- ③体力テストの実施と活用。特に、12分間走とマラソン大会で持久力向上を図る。
- ④食育推進「早寝・早起き・朝ご飯」を推奨する。
- ⑤問題行動への早期対応と共通理解に基づいた指導を行う。
- ⑥いじめのない学校を目指し、常に生徒理解に努め、変化には迅速に対応・指導する。
- ⑦全職員の共通理解、保護者や関係機関との連携で課題解決を図る。

教師の主な課題

- ・生徒とのかかわり
- ・集団指導と経営
- ・教師の後ろ姿
- ・組織の活発化と連携

心の教育

- ①教師と生徒、生徒相互の心の交流を深め、登校が楽しみな学校づくりに努める。
- ②人権尊重教育・理念を正しく理解し、思いやりの心や規範意識の高揚を図る。
- ③道徳の全体計画の策定と「心のノート」活用、道徳地区公開講座の工夫と実践ボランティア活動や諸行事を通じて道徳的实践力を高める。
- ④教育相談室の効果的活用。SCや心の教育相談員との連絡を密にする。特に、不登校生徒や悩みを持つ生徒の理解に努め、保護者との連絡も十分にとりながら対応・指導することで課題解決を図る。

教師の主な課題

- ・人間尊重の精神
- ・道徳授業の充実
- ・学年、学校の共通理解
- ・心と形・生徒理解

進路指導

- ①キャリア教育の視点で3年間を見通した進路指導計画を作成し、人間としての生き方について考えさせる、また、職場体験やボランティア体験活動等を通して望ましい勤労観や職業観が身に付くようにする。
- ②進路資料の作成や保護者と連携した上級学校説明会の工夫や年間計画による面談等で生徒が主体的に情報を整理し進路選択できる力を養う。

教師の主な課題

- ・キャリア教育の理解
- ・情報収集と提供
- ・情報理解と活用
- ・教育相談的手法
- ・保護者との信頼関係

特別支援教育

- ①校内委員会の活発化と巡回相談員との連携を緊密にした体制を整える。
- ②コーディネーターを中心として、個別の教育支援計画を保護者とともに、検討し策定する。個別指導計画に基づいた特別支援教育を推進する。
- ③特別支援学級と通常の学級生徒の交流を基とした教育活動を一層深める。平成25年度の区教委研究指定校の研究の方向性を検討する。
- ④都の特別支援教育第三次計画を見据えた活動を検討する。

教師の主な課題

- ・特別支援教育の理解
- ・校内委員会の充実
- ・保護者連携と計画作成

特別活動・部活動

- ①様々な集団活動や体験活動の実践を通して豊かな学校生活を築き、社会に参画する力を育成する。部活動は全教員が顧問として関わり実践する。
- ②生徒が主体的に取り組む、学校や学年行事の工夫と充実を図る。その為にも「学級活動」や「生徒会や委員会活動」の充実を図る取組を推進する。
- ③一人一人の生徒理解に努め、その良さを伸ばす。

教師の主な課題

- ・社会貢献
- ・生徒理解
- ・各活動計画と実践・指導力

指導を充実させるための基本的事項

1 安全・安心と管理

- ①危機管理マニュアルの見直しと定着を図る。特に、大地震に対応するものを4月に整備する。
- ②事故や災害発生時には危機管理マニュアルにより、迅速且つ組織的に対応する。
- ③セーフティ教室や安全教育・安全教室等を計画的に実施する。また、救急救命の講習会や熱中症予防教室を実施し、自他の健康・安全についての理解を深める。

2 研修の充実

- ①校内研修年間計画に基づき研修の充実に努める。
- ②OJTの授業研究を推進し、授業力の向上を図る。また、若手教員の育成に努める。
- ③次年度の新学習指導要領への速やかな移行や、特別支援教育など新教育課題について研究を深める。

3 サービスの厳正

- ①教育公務員としての自覚と責任ある言動により、生徒や保護者との信頼関係を築く。
- ②特に、個人情報の保護・体罰・わいせつやセクハラ・交通事故・金銭の適正な管理など、都教委から通知のある事項については、その周知と日常の点検と管理に努める。

4 予算の適正・効率的な執行

- ①予算委員会において、学校全体の重点的な配当や、購入する物品等の必要度の精査を行い、効率化を図るとともに、教材・教具を含む備品の管理を徹底する。
- ②私費負担を軽減するとともに、決算書様式の統一と監査体制を整えて適正化を図る。

5 学校・家庭・地域社会との連携

- ①地域小学校との8年間続いている「交流部活動」や「出前授業」を一層充実させる。
- ②区内大学生や地域人材を活用した活動を展開することで、特色ある教育を推進する。
- ③地域の団体等との交流や、町会や地域行事への積極的な参加を促し、一層の充実を図る。
- ④学校説明会の開催、ホームページのリニューアルと更新、学校からの諸たよりの発行を通して、学校の諸活動状況を知らせる。地域に開かれた学校づくり努める。
- ⑤PTAや「学校評議員会」、「おやじの会」等との懇談会や行事を計画的に進める。

中期経営目標

- ①人権尊重教育・理念を正しく理解し、思いやりの心や規範意識の高揚を図る。
- ②生徒が、明るく元気で、夢を持ち、その実現に向けて主体的に活動する環境をさらに整備する。
- ③知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。学力向上、体力の向上、キャリア教育や道徳授業の充実と諸活動を通じて実践力を付ける。そのためにも、OJTを充実させ授業力の向上など教員・特に、若手教員の指導力を高める。
- ④小学校、高等学校や大学との連携と家庭や地域社会との連携をさらに深め、特色ある教育活動を企画・実践することで、地域により一層開かれた学校とする。
- ⑤新学習指導要領の着実な実行と特別支援教育の都三次計画の検討と校内体制を整備する。